

平成 24 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 ウ ラ イ 株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 裏井 紳介
(J A S D A Q ・ コード 2658)
問 合 せ 先 責 任 者 取締役総務統括本部長 齊木 正一
電 話 075-361-0330

「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日発表の「平成 24 年 3 月期決算短信」において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

当社グループは、きもの市場の急速な縮小に伴い平成 19 年 3 月期連結会計年度以降 4 期連続した売上高の減少と営業損失及び経常損失を計上しており、平成 23 年 3 月期連結会計年度におきましては、89,494 千円の営業利益、59,064 千円の経常利益を計上することができましたものの、特別損失に貸倒引当金繰入額 265,729 千円を計上したことから 176,842 千円の当期純損失を計上する状況となり、平成 24 年 3 月期第 3 四半期連結会計期間末におきましては、105,937 千円の営業利益、84,449 千円の経常利益、86,010 千円の四半期純利益を計上いたしておりましたが、通期での営業利益、経常利益、当期純利益の計上には至っていないことから「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

当社グループは、当該状況を解消すべく、収益状況に見合った適正な要員の実現を図るとともに、利益計上体制の構築に向けて外部環境の変化を考慮した中期経営計画を策定、①事業部門取扱商品の相乗効果による販売強化、②販売部の地域別再編による営業効率の改善、③商品管理の徹底、④費用対効果の管理の徹底、また、在庫リスク及び債権リスクへの対応と経営資源の見直しによる資産効率の向上に努める等収益力の強化と財務体質の改善に向けて取り組んでまいりました。

その結果、平成 24 年 3 月期におきまして、売上高の減少はありましたものの、営業利益 105,883 千円、経常利益 77,710 千円、当期純利益 82,344 千円を計上することができたことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は存在しないものと判断し、平成 21 年 3 月期第 3 四半期連結会計期間末より平成 24 年 3 月期第 3 四半期連結会計期間末まで記載しておりました「継続企業の前提に関する注記」を、本日発表の「平成 24 年 3 月期決算短信」において解消することといたしました。

当社では、今後も引き続き収益力の強化と財務体質の改善に取り組み、業績の向上に努めてまいりますので、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上